

ガーナでそろばんプロジェクト 100号(2022年3月31日)

★★これからそろばんを通し10がわかる喜びを伝えていく★★

前号ではそろばん教室が開室して300回を迎えたことを報告しました。今回はこの『ガーナでそろばんプロジェクト』報告書が2011年5月に始めて以来1000回を迎えたことを報告します。とても嬉しいことです。これは私のガーナでの活動を温かく見守り応援してくださっている方々のおかげです。あらためて感謝の意を表します。ありがとうございます。これからも、そろばん教室を始めるきっかけとなった「10がわかる喜び」を子どもたちに体験させていきます。「10がわかる」ことははじめの一步であって世界が広がるものだと思います。

3月のそろばん教室は1回のみ開室となりましたが人数が3人と少なかったため図書館を使いました。これまで、雨が降ると雨漏りが起き、そろばんを弾いている手を止め机を移動するなどしていましたが、図書館で行えば雨漏りの心配はありません。最大10人までそろばんを弾くことができるかな?と思いました。図書館でそろばん教室を行なうには最大6人が良いと感じました。この日、登室した子どもは6年生の男の子3人でした。この中には、かつてパトリック・コンスタンス兄弟に連れられて来ていたアントニーもいました。初めて教室に来たクラスメイトにそろばんの弾き方を教えていました。珠を丁寧に弾くとききれいな音がすることを子どもは知っています。きれいな音がする弾き方をアントニーはそのクラスメイトに指導していました。とても見ている微笑ましい光景でした。しかし、こうした微笑ましい光景とは反対に「どうしてなる?」ということもあります。毎回、ボールペンを持ってこなかったり、吹きっさらしの教室でないのに、子どもプリントが茶色く汚れてしまうのです。手入れをしても弾きにくくなるのも頷けます。「手は汚れていないね。きれいな?」と始める前に聞いてもいつも答えは同じで「イエス」です。これは、300回を迎えても1000回を迎えても変わりません。

注意しても変わらないことは多々あれども、そろばんを学ぶことで子どもの計算力は確実に向上してきます。これからも「10がわかる喜び」の活動を続けていきます。



協賛



トモエそろばん様

報告 TOSHIKO